



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail:lets@some.jp

うるわし通信

平成26年11月

徘徊せよ

友人、切明千枝子さんの短歌に〈広島のことこ骨の埋められき「ゴメンナサイネ」と詫びつつ歩く〉というのがあります。

桜井もまた、歩くに適した土地柄です。何処へ行っても歴史があり、古代からの死者があり、声なき声を発しつづけているのです。

大阪・紀州・熊野の歴戦の兵を率いたイワレヒコが桜井で最初に襲った忍阪の村人たちに、もしも敗れていたら…長髓彦との合戦にももしも敗れていたら…歴史にももしもは無いといわれますが、もしもを考えるのは、わたしたち歴史の素人にとって最も楽しいことです。

神武天皇といわれる初代の後にタギシミミが帝位につきますが、神武後妻の子ヌナカハミミに殺され帝位を奪われます。これも逆だったら、当然、先妻の子タギシミミが嫡男としての系譜を後世に伝えたでしょう。

歴史を考えると必ず歴史書作家や帝紀編纂者に思いは及びます。彼らはルポライター小説家・伝承収集者であり、仕事に国家公認の印をもらう立場の人です。

しかし、まあ人類の起源は20万年前のアフリカに始まったといわれますし、最近、沖縄の石垣島で発掘された人骨は推定2万年前と伝えられます。そうした物差しからみれば、日本神話も批判の対象にもならない児戯のような可愛いものだ。ともいえます。

万葉集巻頭の歌〈みこよみこもち〉で始まる長歌は、いまから3千年前の古代中国の『詩経』にもあり、当時すでに東アジア一帯に定着していた春を予祝する草摘み行事といわれています。ついでながら短歌の5・7・5・7・7型式は古代中国の五言絶句や七言絶句の影響のようです。アフリカに始まった人類、その文化が長旅を経て日本列島へ伝わった、はるかな歴史を思います。

〈三輪山をしかも隠すか雲だにも心あらなもかくさふべしや〉は、その時代の不安が潜在し、三輪山へ寄せる信仰が歌われ。時代が下って〈あしびきの山川の瀬のなるなべに弓月が岳に雲立ち渡る〉は、安定した時代のもと、悠々と展開される世相が作者の作風を規定してしまったようです。

さて、わたしは家から歩いて55分ほど、中和幹線の隣市檀原との境界地あたりが、三輪山も葛城山系も眺望し、青垣山に囲まれた「まほろば」を感じとり易くて、散歩か、徘徊か、しばしば行きます。空間としての土地の境目はまた、時間としての歴史の境目をも感じさせます。

来年は敗戦後70年目。今年は第一次世界大戦勃発100年の節目でしたが、わたしたち、どうやら歴史の境目に立たされているようです。

(浅川 肇)

城島の地名の由来をご存じですか？

昭和54年、かつての桜井市教育委員会社会教育課長 米田一郎氏が次のような手記を残されています。ここでいう磯城嶋とは、現在の城島公園周辺の土地を指しています。

【磯城嶋の故地について】

桜井市に合併された、旧城島村は、日本書紀に謂う『倭国の磯城郡の磯城嶋』の地であります。欽明天皇の磯城嶋金刺宮があったのもこの地であります。村名は既に喪われましたが、今、税務課の土地台帳には『しきしま』の小字名が漸やくやく伝えられております。『城嶋』は日本総国の枕詞でもあり、日本の古名でもあります。仏法が初めて日本に正式伝来したのもこの地であります。

敷島の道とは、古来、詩歌文芸の道と同義語でありました。

日本の名に冠せられる地名であり日本を表す地名であり、仏法公伝の地であり、詩歌文芸の同義の名であるこのゆゆしい地名がいつか喪われてしまうのは惜しみても余りあることであります。いわばこの地は日本文化の原点とも言うべき地なのであります。

この日本にとって、日本人にとって、日本の文化にとって、かけがえの無い大切な地名が、あまり人に知られる事もなく、何時とは無く、亡んでゆこうとしているのです。

私達の住む桜井の地に一町八反歩ばかりの、そんな農地があることを皆さんに知って欲しいのであります。
「桜井市教育委員会 社会教育課長 米田 一郎 記」

古書によれば、「初瀬川と粟原川にはさまれた地域を、『シキ』または『しきしま』と呼ばれ、この地を欽明天皇の宮とする、磯城嶋金刺宮が営まれた」とあります。『しきしま』の『しま』とは、宮廷領の一区域を指し示すことから、『しきしま』は日本国を指す言葉になったそうです。すなわち、現在の国号は『日本』ですが、昔は『しきしま』と呼ばれていた事になります。

都の名が国の名になった例は後にも先にも無い事で、これは、この地が大和朝廷の偉大権力をまとった大いなる都であったと考えられます。また、古代の市場である「つばいち」があったのもこの地で、当時は国際都市として繁栄していたであろう事が想像できます。毎年この地域で開催される万葉まつりはその名残りと言えます。現在、城島公園には、四つの碑が建立されています。

国号の発祥とも言うべき『しきしま』の地である事を示す、『磯城邑傳稱地の碑 しきむらでんしょうのちのひ』次に『欽明天皇磯城嶋金刺宮跡の碑 きんめいてんのうかなさしのみやあとのひ』続いて『仏教公伝の碑』、一番左が『柿本人麻呂の歌碑』です。

仏教が公伝した事、国際都市として栄えた事から、航海の安全を見守る宗像の神がこの地にあることも、つながりがあるのではないのでしょうか。当時の日本の中心地であったのなら、茶臼山古墳のような立派な大王墓が残っていても不思議ではありません。

このように私達が暮らすこの外山区城島町が日本の歴史上大きな意味を持つ地であることに違いないのです。その事を知り、忘れ去られないよう伝えていかなければならないと思うのです。



城島公園に建つ四つの碑

*上記の内容は「外山区報むなかた」より引用させていただきました。(ひがし 俊克)

安倍・磐余を楽しむ

10月25日(土) 桜井市市民活動交流拠点で、NHK文化センター講師の雑賀耕三郎氏による講演会が行なわれました。「安倍・磐余」の歴史についての講演で、多数の参加者で賑わいました。

大和朝廷期の大王時代の磯城に対し、磐余は大陸の文化を受け入れる新開地でした。その遺構は若桜神社(神功皇后)・稚桜神社(履中天皇の宮跡)・磐余甕栗宮跡(清寧天皇)・磐余玉穂宮(継体天皇)・百済大井宮/訳語田幸玉宮(敏達天皇の宮)に存在します。

当時の風情は、安部寺・百済寺/百済の宮跡・青木廃寺などに足跡を残しています。

時は巡り、当地に河内を中心とした中臣氏が勢力を強めると、春日大社の創設のため神託を受けた中臣植栗連時風・秀行らが鹿島・香取から祭神武甕槌命・経津主命をお祀りするためにやって来ます。祭神は一旦、安部山の神宮山(しんぐりやま)に鎮座されます。この事は植栗神社(現：三十八神社)に本貫を持つ中臣の勢力があった事によると思われます。

一方、春日野(奈良)の地神であました「榎本の神」は、安部山の知行神である武甕槌命に知行の交換を申し出ます。榎本の神は耳が遠く「地下三尺を譲ってもらいたい」と申し出たのを「三尺の広さ」と聞き間違えてしまいました。そこで困った榎本の神は、武甕槌命の本殿のすぐそばで住むようになりました。これが現在の榎本神社とされます。

この遺構を訪ね、本居宣長が古事記伝の編纂のために、明和9年(1772年)に記紀の古里・桜井にやって来ます。吉野の水分神社に詣でた帰路に「安部・磐余」を訪ねています。当時の情景は、宣長の旅日記であります「菅笠日記」に認められています。

《こぼれ話》

聖林寺の国宝十一面観音は、大神神社の神護寺・大御輪寺(現若宮社)に鎮座されていましたが、明治の廃仏希釈の嵐にあたり、当うるわしの桜井をつくる会の会員であります米田昌徳氏宅(大御輪寺の僧侶を務められていました)に一旦保管されていたそうです。



植栗神社(現三十八神社)

中臣植栗連時風・秀行の祈り、宣長の調査の姿を聖林寺の観音様が、今もほほ笑み掛けて頂いている様です。

雑賀先生お疲れさまでした。これからも桜井市のために、ご尽力をお願い致します。



中臣植栗連時風・秀行

(うるわしの桜井をつくる会：藤井 義晴)

事務局だより

- 次回の常任理事会は12月6日（土）午後1時30分より「市民活動交流拠点」（まほろばセンター 第1研修室）で行います。

お知らせ

● 図書館友の会

11月の読書会は、『変身：カフカ著』を読みます。
ある朝、気がかりな夢から目をさますと、自分が一匹の巨大な虫に変わっているのを発見する男グレーゴル・ザムザ。

日 時 11月25日（火）午後1時30分から

場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点

問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



● 桜井記紀万葉歌碑原書展

桜井市が所蔵している記紀万葉歌碑の原書47、拓本17 作品が展示されます。ノーベル賞受賞者の湯川秀樹氏、版画家の棟方志功氏などの原書が公開されます。

・ 入江泰吉「万葉写真展」併催・万葉講演会

・ 図録及び関連グッズの販売

・ 「自然に生きる」保田與重郎生誕100年記念ビデオの上映（協力：株式会社新学社）

日 時 平成26年11月26日（水）～30日（日） 午前10時～午後8時

※最終日は午後5時閉館 入館は各日閉館の1時間前まで

場 所 あべのハルカス近鉄本店（ウイング館8階 近鉄アート館）

入場料 500円（下記の特別優待券をご提示ください。ご優待価格400円で入館いただけます。）

主 催 桜井記紀万葉歌碑原書展実行委員会

問合せ先 桜井市観光まちづくり課内 桜井記紀万葉歌碑原書展実行委員会事務局

☎0744-42-9111（内線341・342）

桜井記紀万葉歌碑原書展特別優待券

～昭和の文人が愛した神なびの郷～

20%割引（1枚で2名様までご利用できます）

期 間 平成26年11月26日（水）～30日（日）各日午前10時～午後8時

※最終日は午後5時閉館 入館は各日閉館の1時間前まで

会 場 あべのハルカス近鉄本店 ウイング館8階近鉄アート館

料 金 **400円**（本券を入場券売り場でご提示ください）

発 券 一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会



山の辺の道と歌碑 撮影：木村昭彦

後記 桜井市のダイオキシンを発生させない筈の高価な溶融炉が、実はそうでなかった。神話はまたも敗れたのです。周辺の住民への説明はなされているようですが、健康への関心は全市民のもので。積極的な究明を待っているのは、わたしだけではない筈です。なお、これは大阪の抜き打ち検査で判明したのですが、本来は市民が行政機関を総チェックすべきではないか。と思っています。行楽の秋。健全な大気のもとを歩きたいものです。（浅川 肇）

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345